

馬龍犬
災害救助犬めざしてます



いつもそばにいるよ



▲2016年4月、熊本地震が発生。南阿蘇地区で行方不明者を捜す、日本レスキュー協会の災害救助犬。

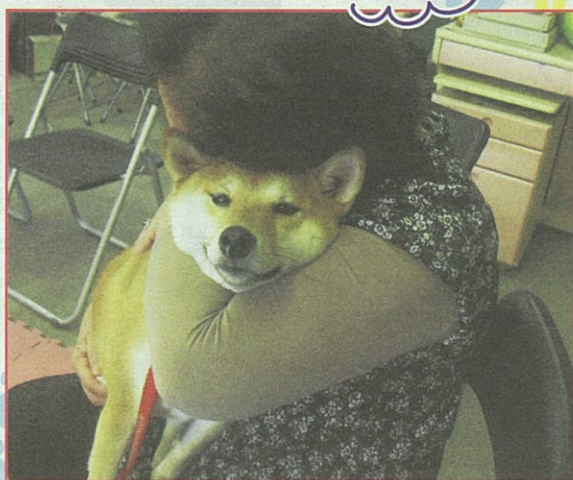
▲日本レスキュー協会の敷地内にある「セラビードッグハウス」にて。柴犬・海音とリラックスJ



▲島根あさひ社会復帰促進センターの訓練生(受刑者)が育てている、盲導犬候補の子犬。

2015年3月、高知県中央小動物管理センターで殺処分される予定だった3頭の子犬を日本レスキュー協会が緊急保護。一番体が大きかった犬を、高知県出身の坂本龍馬の名前をとって「龍馬」と名づけた。「妹と弟を守ろうと必死に前に出てきていた、勇敢なお兄ちゃんです」(同協会・守谷さん)。スタッフは時間をかけて龍馬の心身のリハビリを行ったよ。がれきの山や高い所などを怖がらず、かくれんぼ好きの性格を見いだされ、災害救助犬の訓練を始めるようになった。

働く犬とのワンダフルな関係



▲老人ホームや病院、被災地など、日本レスキュー協会ではセラビードッグの訪問活動を年200回以上実施。

セラビードッグ

人と直接触れ合い、交流することで、人の心と体を癒やす働きかけをする犬。病気の人や精神的な痛みを受けた人に効果的といわれ、介護ケアや医療プログラムとして、セラビードッグの訪問を導入している施設もある。



▲左は2015年4月のネパール大地震、右は17月の九州北部豪雨災害の時の捜索の様子。

犬と人の
いおせ



災害救助犬やセラビードッグの派遣をしている日本レスキュー協会(兵庫県伊丹市)の見学会を訪ねた。救助犬の犬舎をのぞくと、尾をブルブル振って喜ぶ犬たちの中、ただ一頭、みしてほえている雑種犬がいる。龍馬「2年前、高知県の保健所で殺処分だったところを保護したんです。人を怖がる時があるのですが、龍馬今、災害救助犬になるための訓練中。張っているんですよ」と同協会の中予さん。一緒に保護された龍馬の妹も、セラビードッグ見習いとして活一度は人に捨てられ傷ついた犬が、助けようと頑張っているんだ。

人と犬の関係の始まりは1万年以上に遡る。獲物を一緒に探して追い回す、生きていくための大切な相棒だ。縄文遺跡からは、人と犬が抱き合う姿で眠る棺も見つかっている。

「龍馬おいで」と呼ぶと顔を近づけて、首をなでると鼻を鳴らした。顔には人のようにはっきり動く表情がない。でも、龍馬の顔は笑ってみ